

薬剤部 DI ニュース

皮膚外用剤について確認してみませんか？

皮膚外用剤に多くの剤形があるなかでも、特に軟膏とクリームが繁用されています。

当院でも、同様の傾向となっていますが、軟膏とクリームのその違いについてご存知でしょうか。

<軟膏・クリーム・ローションについて>

- 軟膏・・・皮膚透過性が低い 刺激が少なく皮膚保護作用が強い。
- クリーム・・・皮膚透過性が高い 軟膏と比べ皮膚刺激があるため損傷した部位への使用は適さない。
- ローション・・・皮膚透過性が低い 冷却感や伸びが良いため塗り心地の良さがある。

その他の皮膚外用剤の分類とその特徴については、表1にまとめています。基剤や剤形によって皮膚透過性、適用部位や特徴などが異なってきますので、一度ご確認ください。

表1 皮膚外用剤の分類と特徴

種類	成り立ち	長所	短所
軟膏	油性性基剤 ワセリンを主とする	①皮膚保護作用 ②肉芽形成を助ける ③皮膚柔軟作用 ④安全性,安定性が高い	①べとつく ②洗い落としにくい(密着性) ③分泌物の除去作用がない
	水溶性基剤 マクロゴールを主とする	①水分分泌物を吸収し、 除去作用が強い ②皮膚への浸透性が弱い ③水洗性	①乾燥作用がある
クリーム (バニシングクリーム)	水中油型(O/W型) 水・油相成分,乳化剤,保存剤含有	①浸透性大 ②目立たない ③塗布感が良い ④伸びが良い ⑤水洗性	①刺激性は軟膏より大
クリーム (コールドクリーム)	油中水型(W/O型) 水・油相成分,乳化剤,保存剤含有	①適用範囲が広い ②水洗性が少しある ③浸透性やや大	①ややべとつく
乳液状ローション	水中油型(O/W型) 水相部分が大きい	①目立たない ②冷却感 ③水洗性 ④伸びが良い	①流れやすく,過量になることがある ②分離することがある
溶液型ローション	溶解液 (アルコール類と水を主体とする)	①目立たない ②冷却感、塗布感がよい	①流れやすく,過量になることがある ②刺激性がクリーム・軟膏より大
ゲル	ヒドロゲル 網目構造を膨潤させている溶媒が水	①水性分泌物を吸収し、除去する 作用が強い ②水洗性 ③浸透性が弱い	①刺激性がクリーム・軟膏より大
	リオゲル(FAFP) 水相を欠く(トプシムのみ)	①浸透性大 ②水洗性	①刺激性がクリーム・軟膏より大

外用剤の塗布量についてご存知ですか？

ステロイド外用剤を塗る量として「1FTU」という単位を使用して患者に説明を行います。

この「FTU=Finger Tip Unit」とは、人差し指の先端から第一関節部までチューブから押し出した量（約0.5g）（図1）が成人の手で2枚分すなわち成人の体表面積のおよそ2%に対する適量である という考えです。



図1 1FTU (1 Finger Tip Unit)

この1FTUから成人が全身に塗布する量を推定することになり、体の様々な部位に塗布する場合に用いられる単位になります。図2に各部位に塗布するのに必要なFTU数を示しているのので、患者さんへの説明にご活用ください。

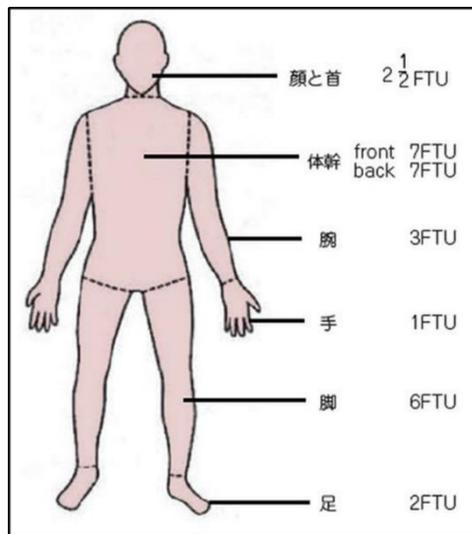


図2 成人に軟膏剤を塗布するのに必要なFTU数

参考文献：月刊薬事 2011年11月号,

(文責：薬剤部 屋敷)